

山武稲作情報 第1報

(2022年5月25日発行)



山武農業事務所 改良普及課
TEL：0475-54-0226
FAX：0475-52-7914

山武地域の生育状況

5月上旬に悪天候が続きました。徒長気味で根張りの悪い苗を移植したほ場では活着の遅れがみられ、水深の深いほ場では、分けつの発生も遅れています。また、植え傷みによる下葉の枯れあがりもみられています。冬季の低温や秋期の降雨による秋耕の遅れ等により稲わらの分解がすすんでいないほ場では、還元障害や赤枯れの発生も確認されています。ジャンボタニシの発生は例年より少ないですが、被害は散見されています。ジャンボタニシ対策、並びに分けつの促進を図るために浅水を心がけ、初期生育量の確保をしましょう。

今年の育苗を振り返って

今年の育苗期の障害は、**発芽の不揃い** **苗の徒長** **苗のヤケ**の3点が多く見られました。例年に比べ、3月末～4月上旬の気温が低く、また4月中旬までに平均気温が20度を超す日(図1参照)もありました。気温の変動が激しく、また日照不足(図2参照)もあったことが様々な障害に影響したと考えられます。今年度の問題点や、被覆資材の選び方、使用方法について再確認し、来年度の育苗管理にいかしましょう。

図1 日平均気温の推移(アメダス、横芝光)

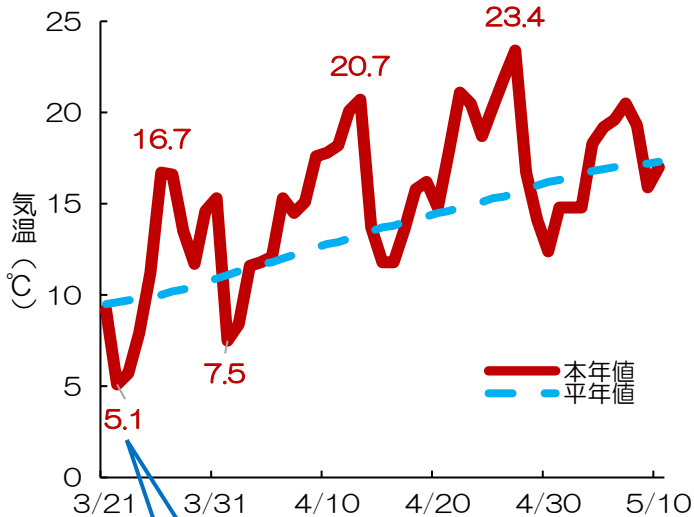
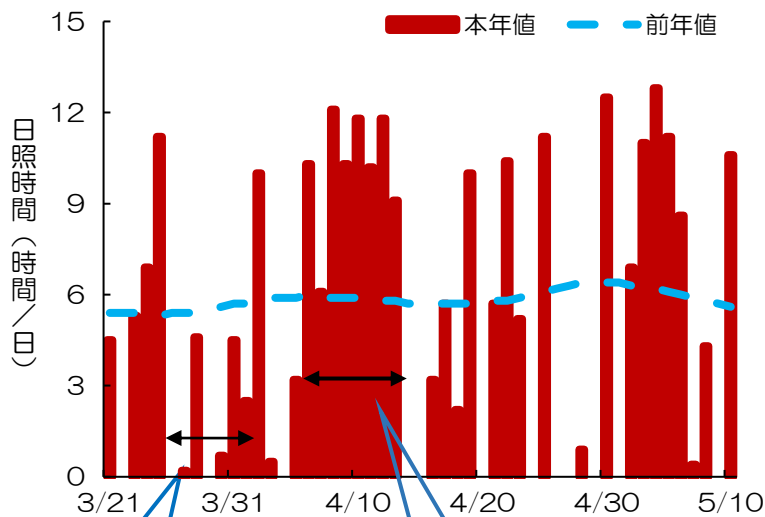


図2 日照時間の推移(アメダス、横芝光)



低温が続きました。平置きをした場合の床土の温度保持が難しかったことから、**発芽が揃いにくい環境**でした。

平置きでの発芽時の最適温度は、**30～35°C**です。緑化期は、**20～25°C** 硬化期は**25°C以下**です。(昼間の最適温度)

日照不足の期間が続きました。日照を確保することが難しく、床土が乾かず水分過多等になったことより**根張りが悪くなる環境**でした。

また、雨が続いたことからハウス内の湿度も高くなり**カビの発生**が助長されました。

急激に温度が上がり、日照時間が増加し、**苗が徒長**しやすい状況でした。地温の温度管理が難しく、**細菌病やヤケ**などの高温障害が発生しやすい環境でした。



写真1 低温と水分過多による発芽不揃い

写真2 ハウス内高温による徒長

写真3 高温による苗のヤケ

被覆資材の主な特徴と種類について

近年育苗期間中の気温が高かったことから、被覆資材を保温シートから「本州太陽[®]シート」（以下太陽シート）に切り替える方が山武管内で増加しています。今年度に関しては、育苗期間中に低温の期間があったため、遮光率の高い太陽シートでは、発芽適温を確保できませんでした。表1を参考に育苗時の天候にあった被覆資材を選択し、健康な苗づくりを目指しましょう。

表1 被覆資材の主な種類と特徴

| 被覆資材 | 光の透過性 | 保温 | 遮光 | 特徴 | 注意点 |
|----------------------|-------|----|----|---|-------------------------------------|
| ラプシート (または不織布) | △~○ | | ○ | 通気性が高いため、急激な温度変化が少ない。強風でハウスが開けられないが、日差しが強い時などに使用。 | 単独で使用する場合の乾燥 |
| 健苗シート (保温シート) | ○ | | | 保温性が高いため低温が予想される場合、出芽が揃いやすい。 | 急激な地温の上昇による苗のヤケや高温障害 |
| シルバーポリトウ | ◎ | ○ | | 低温時の保温性が非常に高く、出芽が揃いやすい。 | |
| アルミ蒸着シート (太陽シート等) | △ | ○ | ◎ | 急激な温度上昇を防ぎ、苗のヤケ等の高温障害防止に良い。 | 低温時の床土の温度上昇に工夫が必要 アルミ部の摩耗による苗のヤケ |

ジャンボタニシの対策と今後の管理

今年度もジャンボタニシの発生量は「やや多」と予想されています(病害虫発生予察第2報より)。以下の項目に当てはまる方は効果的に薬剤を用いてジャンボタニシ対策を行いましょ。



病害虫発生予察の詳細はこちらをご覧ください

✓ 田植え同時に薬剤を散布したが食害を受ける

ジャンボタニシは水温15℃以上で活発化します。ジャンボタニシがまだ活動を開始していない場合、薬剤の効果が表れません。水温やジャンボタニシの活動を確認してから薬剤散布しましょう。

✓ 活動している時に薬剤を散布したが食害を受ける

薬剤が崩壊すると、薬剤を摂食できず効果が減少します。散布後は、薬剤効果を安定にするため、入水など水の移動を抑えます。さらに散布後3日ほどは水深を3~5cmに保ちましょ。

✓ 殺貝剤も食害防止剤も使用したが食害を受ける

殺貝剤はジャンボタニシが摂食することで効果を発揮します。食害防止剤(パダン等)を同時または殺貝剤より先に使用するとジャンボタニシの摂食活動が低下し、殺貝剤をたべなくなります。先に食害防止剤を使用した場合はその効果が切れてから(パダン粒剤の場合1週間程度)殺貝剤を使用ましょ。

✓ 最初は食害が減ったが、再び食害が見受けられる

1回目の散布の1週間後にほ場を確認し、ジャンボタニシが活発に活動している場合は、追加散布を行いましょ。ジャンボタニシは移植後1ヵ月ほど稲を食害します。

生育調査結果（5月20日現在）

*本年値の（ ）内は平年値(過去10年、ふさこがね、アキヒカリは過去2年)との差を示しています。

*夢あおばについての調査結果は第2報から掲載予定です。

コシヒカリ

| 場所・移植日 | 年次 | 草丈(cm) | 茎数/本 | 茎数(本/m ²) | 葉齢 |
|---------------|----|-----------|----------|-----------------------|-----------|
| 東金市 5/3 移植 | 本年 | 29.0(93%) | 4.0(54%) | 68(51%) | 5.0(-0.7) |
| | 前年 | 26.1 | 6.7 | 112 | 5.1 |

ふさこがね

| 場所・移植日 | 年次 | 草丈(cm) | 茎数/本 | 茎数(本/m ²) | 葉齢 |
|---------------|----|-----------|----------|-----------------------|-----------|
| 山武市 5/7 移植 | 本年 | 23.0(97%) | 6.1(98%) | 112(98%) | 4.7(-0.1) |
| | 前年 | 21.0 | 4.5 | 70 | 4.8 |

ふさおとめ

| 場所・移植日 | 年次 | 草丈(cm) | 茎数/本 | 茎数(本/m ²) | 葉齢 |
|----------------|----|------------|----------|-----------------------|-----------|
| 山武市 4/27 移植 | 本年 | 28.0(117%) | 4.8(62%) | 95(67%) | 4.5(-1.7) |
| | 前年 | 22 | 5.4 | 91 | 5.1 |

アキヒカリ

| 場所・移植日 | 年次 | 草丈(cm) | 茎数/本 | 茎数(本/m ²) | 葉齢 |
|----------------|----|-----------|----------|-----------------------|-----|
| 山武市 4/30 移植 | 本年 | 26.5(95%) | 4.5(51%) | 83(55%) | 5.3 |
| | 前年 | 28 | 6.5 | 118 | - |

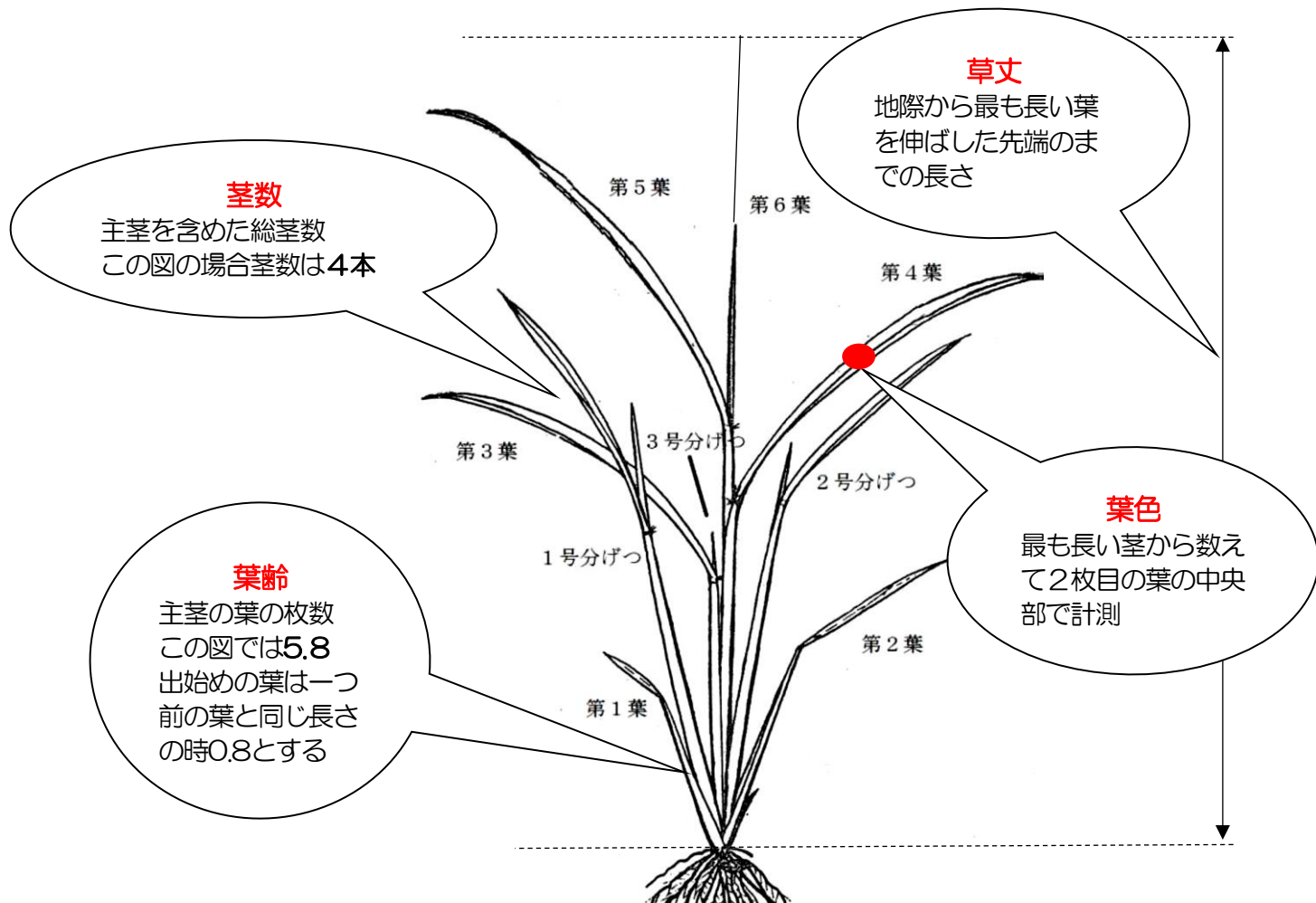
農林総合研究センター 成東育成地（山武市成東）による生育調査結果(5月20日現在)

*本年値の（ ）内は平年値(過去10年、粒すけのみ過去2年)との差を示しています。

| 品種・移植日 | 年次 | 草丈(cm) | 茎数/本 | 茎数(本/m ²) | 葉齢 |
|------------------|----|------------|----------|-----------------------|-----------|
| コシヒカリ 4/25 移植 | 本年 | 30.1(111%) | 8.4(80%) | 155(81%) | 5.6(-0.2) |
| | 前年 | 29.1 | 9.6 | 195 | 6.1 |
| ふさこがね 4/25 移植 | 本年 | 26.5(111%) | 8.7(76%) | 164(78%) | 5.6(-0.7) |
| | 前年 | 23.2 | 10.7 | 217 | 6.6 |
| ふさおとめ 4/25 移植 | 本年 | 29.3(118%) | 8.7(70%) | 164(72%) | 6.0(-0.5) |
| | 前年 | 24.0 | 11.2 | 229 | 6.5 |
| 粒すけ 4/25 | 本年 | 27.7(122%) | 8.1(83%) | 147(73%) | 5.9(-0.7) |
| | 前年 | 22.7 | 9.8 | 201 | 6.6 |
| 粒すけ 5/16 | 本年 | 12.4(88%) | 4.0(88%) | 69(86%) | 3.1(+0.3) |
| | 前年 | 14.1 | 3.9 | 81 | 2.8 |

• データの見方（調査基準について）

以下の図を参考に、稲を観察し、調査地点の数値と比較してみましょう。



出典：稲作標準技術大系（千葉県）を一部改訂

次回の発行は6月6日を予定しています。